

# 身体拘束に関する記録

事業所名: ○×こどもデイ

事業所番号: 1300000000

サービス: 児童発達支援・放課後等デイサービス

記録作成日: 令和8年6月25日

## 緊急やむを得ない場合の3要件(すべて満たすことを確認)

- 切迫性 … 利用者本人または他の利用者等の生命または身体が危険にさらされる可能性が著しく高いこと。
- 非代替性 … 身体拘束その他の行動制限を行う以外に代替する方法がないこと。
- 一時性 … 身体拘束その他の行動制限が一時的なものであること。

対象児童	山田 太郎 (やまだ たろう) 男・6歳	受給者証番号	0000000000
実施日時	令和8年6月18日 14:35 ~ 14:43 (拘束時間 約8分)		
場所	療育室(プレイルーム)		
拘束の態様	興奮し床のブロックを投げ続け、近くにいた他児に当たりそうになったため、職員2名が背後から 本児の両腕を抱える形で動きを制し、安全な場所へ誘導した。器具・固定具は使用していない。		
緊急やむを得ない理由	投げたブロックが他児の顔付近に飛び、けがの危険が差し迫っていた。言葉での制止が届かず、その場で身体を制する以外に他児と本児双方の安全を確保する方法がなかったため。		
その間の心身の状況	抱える間は泣きながら大声を出していたが、外傷・呼吸の乱れはなし。約8分後に落ち着きを取り戻し、職員と一緒に水分をとった後、通常の活動に復帰。以後、当日のけが・体調不良は確認されていない。		

## 検討・試みた代替手段

言葉でのクールダウンの声かけ	興奮が強く制止が届かなかった
他児を別室へ一時退避させる	距離が近く、移動の時間的余裕がなかった
本児の好きな活動への注意転換	物を投げ続けており切り替えに至らなかった

※ 上記の代替手段では安全を確保できなかったため、最小限の身体拘束に至った。

家族への説明	令和8年6月18日 お迎え時に保護者(山田 花子・母)へ 状況と対応を口頭で説明。電話および連絡帳でも記録を共有した。		
家族の同意	<input checked="" type="checkbox"/> 了承を得た / 説明者: 佐藤 花子	今後の対応	クールダウン手順をケース会議で見直す

記録者

田中 美咲

印

管理者確認

佐藤 花子

印

※ 記入例(サンプル)です。事業所名(○×こどもデイ)・法人名(株式会社○○ケア)・所在地・指定番号・各種番号はすべて実在しない架空のものです。